



HeartCore



Heartcore, Inc.
www.heartcore.co.jp
support@heartcore.co.jp

Heartcore, Inc.

HeartCore

Web コンテンツ管理システム

テクニカル ノート

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理



著作権および機密情報

著作権 ハートコア株式会社 1999–2024。当ユーザガイドはハートコア株式会社の機密情報により構成されています。本書の無断複製、複写、転写、情報検索方式での格納、又は、いかなる言語への翻訳においてもハートコア株式会社の許可無しでは固く禁じられています。

注意

ハートコア株式会社は、本書の記載内容において、何時でも予告なく変更することがあります。また、本書において明示または黙示を問わず、一切保証致しません。ハートコア株式会社はいかなる場合においても、購入した際および本書の使用時、またはこれに含まれる情報によって生じた間接的、特別かつ偶発的損害に関しての責任を負いません。

ライセンスおよび商標

HeartCore Web コンテンツ管理や株式会社 HeartCore のロゴは商標であり、ハートコア株式会社独自の登録商標です。また、その他の企業、製品、トレードネームは商標であり、各所有者の登録商標です。

HeartCore Web コンテンツ管理は `wz_dragdrop.js` ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2003 Walter Zorn (www.walterzorn.com) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は `wz_jsgraphics.js` ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2004 Walter Zorn (www.walterzorn.com) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Dynarch DHTML Calendar ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2005 Mihai Bazon (<http://www.bazon.net/mishoo> - <http://www.dynarch.com/projects/calendar>) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Kryogenix sortable ライブラリを使用しています。Copyright (c) 1997-2005 Stuart Langridge (<http://www.kryogenix.org/code/browser/sortable/>) ライセンスは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は SWFupload コンポーネントとライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006-2007 Lars Huring、Olov Nilzén、Mammon Media Copyright (c) 2007-2008 Jake Roberts (<http://www.swfupload.org/>) ライセンスは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Prototype ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2005 Sam Stephenson (<http://prototype.conio.net/>) ライセンスは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Scriptaculous ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2005 Thomas Fuchs (<http://script.aculo.us/>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico ライブラリの一部を使用しています。Copyright (c) 2005 Sabre Airline Solutions (<http://openrico.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico Livegrid Plus ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006 Matt Brown (<http://dowdybrown.com/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Lightbox library ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006 Lokesh Dhakar (<http://www.huddletogether.com/>) ライセンスは Creative Commons Attribution 2.5 License (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.5/>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は TableKit ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2007 Andrew Tetlaw & Millstream Web Software (<http://www.millstream.com.au/view/code/tablekit/>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は jQuery ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2011 John Resig (<http://jquery.org/>) ライセンスは MIT License (<http://jquery.org/license/>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は jsTree ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2010 Ivan Bozhanov (<http://jstree.com/>) ライセンスは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は JavaBeans Activation Framework ライブラリを使用しています。Copyright (c) Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>) ライセンスは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement の条件に準じます。



HeartCore



HeartCore Web コンテンツ管理は JavaMail ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2009 Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>) ライセンスは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Jakarta JCS ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2001-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Commons Logging ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2003-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache log4j ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2010 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は concurrent ライブラリを使用しています。Copyright (c) Doug Lea (<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は slidetabs ライブラリを使用しています。Copyright (c) WebStack (<http://www.slidetabs.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は ContentBuilder.js ライブラリを使用しています。Copyright (c) InnovaStudio (<http://www.innovastudio.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は CodeMirror ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2017 Marijn Havebeke (marijnh@gmail.com) (<http://www.codemirror.net/>) ライセンスは MIT License (<https://codemirror.net/LICENSE>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Tiny Colorpicker ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2013 Maarten Baijs (<http://www.baijs.com/>) ライセンスは MIT License の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は HTML5 FormData Polyfill を使用しています。Copyright (c) 2016 Jimmy Karl Roland Wärtling (<https://github.com/jimmywarting/FormData>) ライセンスは MIT License の条件に準じます。



HeartCore



HeartCore Web コンテンツ管理システム

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理

はじめに

以下のテクニカルノートでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムとあわせて使用する様々なソフトウェア製品の基本的なインストール及び設定について説明します。これらのテクニカルノートは完全なものではなく、使用する製品バージョンによっては不完全で不正確な場合があります。初期段階のテストのための基本的なインストール及び設定の提案としてのみご参照ください。

セキュリティの配慮やより高度なインストール及び設定オプションについては、必ずそれらソフトウェア製品のドキュメントを読み、それに従ってください。

このテクニカルノートのみを参考にした場合のインストール及び設定は、不十分かつ安全でない可能性があります。



目次

はじめに	4
目次.....	5
1 RED HAT ENTERPRISE 3.0	9
1.1 Aspell スペルチェック	9
2 MICROSOFT WINDOWS および INTERNET INFORMATION SERVICES.....	9
2.1 サービスパックとアップグレード	9
2.2 Microsoft データアクセスコンポーネント(MDAC).....	9
2.3 Microsoft JET データベースエンジン	9
2.4 Microsoft Windows スクリプト	9
2.5 Microsoft Windows レジストリ ODBC 権限	10
2.6 Website ルートフォルダ許可.....	10
2.7 デフォルトドキュメント	11
2.8 URL リライティング	11
2.9 CMD.EXE パーミッション.....	11
2.10 一時フォルダのパーミッション	11
2.11 親パスのパーミッション	11
2.12 ファイルアップロード制限	12
2.13 ダブルエスケープシーケンスの許可	12
3 APACHE WEB サーバ.....	13
3.1 URL リライティング	13
4 MICROSOFT SQL SERVER 2000.....	13
4.1 サービスパックおよびアップデート	13
4.2 HeartCore Web コンテンツ管理システムデータベース	13
4.3 ODBC Data Source.....	14



5	ORACLE	14
5.1	Apache Tomcat	14
5.2	Microsoft Windows および ODBC	15
5.3	Microsoft Windows および Internet Information Services	15
5.4	Red Hat Enterprise Linux.....	15
6	IBM DB2	15
6.1	Microsoft Windows および Internet Information Services	15
6.2	テーブル領域.....	16
7	MYSQL	16
7.1	壊滅的なデータベース接続障害	16
7.2	データベース接続認証プロトコルエラー	16
7.3	高度な ODBC 設定オプション.....	17
8	POSTGRESQL	17
8.1	情報の出力	17
8.2	最大テキストサイズ	17
8.3	PostgreSQL 8.3.x	18
9	APACHE TOMCAT	19
9.1	Java	19
9.2	Apache Tomcat	20
9.3	Java tools.jar	20
9.4	Website ルートコンテキスト.....	20
9.5	Website Root Folder Permissions.....	20
9.6	JavaMail	21
9.7	JavaMail Permissions	21
9.8	Microsoft Access および Sun JDBC-ODBC データベースドライバ.....	21
9.9	Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC.....	22



9.10	Oracle および Sun JDBC-ODBC データベースドライバ	22
9.11	Oracle JDBC ドライバ	22
9.12	MySQL JDBC Driver	23
9.13	MySQL Connector/J.....	23
9.14	PostgreSQL JDBC	23
9.15	データベース接続パーミッション	23
9.16	動的再コンパイル	23
10	IBM WEBSPHERE	24
10.1	Web サイトルートコンテキスト/デフォルトアプリケーション.....	24
10.2	画像/ファイルのサービング	25
10.3	データベースドライバ	25
11	SUN JAVA SYSTEM APPLICATION SERVER	25
11.1	Web サイトのルートコンテキスト.....	25
11.2	Web サイトのルートフォルダパーミッション.....	26
11.3	動的な再コンパイル	26
11.4	セッションタイムアウト	26
12	SUN ONE ASP	27
12.1	親パスを有効にする	27
12.1.1	Microsoft Windows	27
13	PHP.....	27
13.1	PHP	27
13.2	PHP PEAR	27
13.3	E メール.....	28
13.4	エラー	28
13.5	制限.....	28
13.6	Oracle.....	28



13.7	MySQL	29
13.8	PostgreSQL	29
13.8.1	データベースドライバ.....	29
13.8.2	データベースエンコーディング	29
13.9	Internet Information Services	29
13.10	safe_mode	30
14	HEARTCORE WEB コンテンツ管理システム	30
14.1	Microsoft Windows + Microsoft Access + JSP	30
14.2	Microsoft Windows + Microsoft SQL Server + JSP	31
14.3	Microsoft Windows + Microsoft SQL Server + PHP	31
14.4	Microsoft Windows + Oracle + JSP	31
14.4.1	Oracle JDBC Driver.....	31
14.4.2	Oracle open_cursors	31
14.5	Microsoft Windows + Oracle + PHP	32



1 Red Hat Enterprise 3.0

1.1 Aspell スペルチェック

Red Hat Enterprise 3.0 には古い破損した"aspell"スペルチェッカーソフトウェアが付属しており、"-a" パラメータを使用してコンテンツをスペルチェッカーにパイプ出力しようとする、ハングします。

スペルチェック機能を HeartCore Web コンテンツ管理システムとあわせて使用するには、"aspell" スペルチェッカーソフトウェアをより新しいバージョンにアップグレードする必要があります。"aspell" スペルチェッカーソフトウェアは、<http://aspell.net/>より無償で入手することができます。

2 Microsoft Windows および Internet Information Services

現行の HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Microsoft Windows 2000 及び Microsoft Windows XP 上で使用するように開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

2.1 サービスパックとアップグレード

Microsoft Windows 2000 は、サービスパック 4（またはそれ以降）にアップグレードされている必要があります。また、Microsoft Windows Update セキュリティパッチやその他の推奨されるアップデートもすべてインストールしてください

Microsoft Windows XP は、サービスパック 1a（またはそれ以降）にアップグレードされている必要があります。また、Microsoft Windows Update セキュリティパッチやその他の推奨されるアップデートもすべてインストールしてください

2.2 Microsoft データアクセスコンポーネント(MDAC)

Microsoft データアクセスコンポーネント (MDAC) は、バージョン 2.8（またはそれ以降）にアップグレードされている必要があります。詳細は <http://msdn.microsoft.com/data/> を参照してください。

2.3 Microsoft JET データベースエンジン

Microsoft JET データベースエンジンは、バージョン 4.0 サービスパック（またはそれ以降）にアップグレードされている必要があります。

2.4 Microsoft Windows スクリプト

Microsoft Windows スクリプトバージョン 5.5（またはそれ以降）がインストールされている必要があります。すべての最近の Microsoft Windows では、このバージョンがデフォルトとなっているはずですが、もしくは、ダウンロードの詳細については

<http://msdn.microsoft.com/scripting/default.htm?scripting/vbscript/download/vbsdown.htm> を参照してください。

Microsoft Windows スクリプトホストオブジェクトモデルは、インストールかつ登録されている必要があります（デフォルトでそうなっているはずですが）。登録されていない場合、次のエラーが発生することがあります:

```
error '8002801d'  
Library not registered.  
/webadmin/Text.asp, line XX
```



これは、"wshom.ocx" ファイルが存在しているフォルダ（例えば c:\windows\system32）上で、以下のコマンドを実行することで解決することがあります：

```
regsvr32 wshom.ocx
```

2.5 Microsoft Windows レジストリ ODBC 権限

Microsoft Windows 及び Internet Information Services では、Microsoft Windows レジストリ ODBC 設定にアクセスするための追加の許可が必要な場合があります。許可がない場合、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベース接続を設定する際に次のエラーが発生することがあります：

```
[Microsoft][ODBC Microsoft Access Driver]General error Unable to open registry key 'Temporary (volatile) Jet DSN for process 0xe60 Thread 0xe5c DBC 0x11e5024 Jet'.
```

Microsoft Windows レジストリ ODBC 設定にアクセスするための許可を付与するには：

- Microsoft Windows レジストリを開きます：
My Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ODBC
- アクセス許可メニューを選択し、Everyone にフルコントロールアクセス許可を追加します。（または、フルコントロール許可付きの“IUSR_XXXXX”を追加します。ここで“XXXXX”は、設定済みの Microsoft Windows のコンピュータ名です。）
- OK を選択します。

警告: セキュリティの理由で、すべてのユーザにフルコントロール許可を付与したくない場合があります。より強いセキュリティ設定の詳細については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

2.6 Website ルートフォルダ許可

Web コンテンツ管理システムには、Web サイトのルートフォルダ及びサブフォルダ内にファイルを作成、書き込みを行うための許可が必要です

Microsoft Windows XP では、「簡易ファイルの共有」が無効化されている必要があります。Windows エクスプローラーウィンドウを開き、簡易ファイル共有を無効化します：

- ツール/フォルダオプション/表示/高度なセッティングを選択します
- 「簡易ファイルの共有を使用する」のチェックを外します
- OK を選択します

Microsoft Windows 及び Internet Information Services では、作成及び書き込み許可は、Web サイトのルートフォルダ（例：C:\inetpub\wwwroot）のプロパティ画面で設定できます。

- Web サイトルートフォルダのプロパティを選択します。
- セキュリティタブを選択し、Everyone にフルコントロールアクセス許可を追加します。（または、フルコントロール許可付きの“IUSR_XXXXX”を追加します。ここで“XXXXX”は、設定済みの Microsoft Windows のコンピュータ名です。）

警告: セキュリティのため、すべてのユーザにフルコントロール許可を付与したくない場合があります。より強度なセキュリティ設定については、Microsoft Windows 及び Internet Information Services ドキュメントを参照ください。



2.7 デフォルトドキュメント

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、`index.asp`、`index.jsp` 及び `index.php` (使用する HeartCore Web Content Management システムのバージョンによって異なります) がデフォルトの Web ページとして使用されます。

Microsoft Windows 及び Internet Information については、以下のうちひとつをデフォルトページとして Web サーバが返すよう設定する必要があります:

- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – 管理ツール – Internet Services Manager. を開きます。
- デフォルト Web サイト及びプロパティとドキュメントを選びます。
- “`index.asp`”、 “`index.jsp`” もしくは “`index.php`” を最優先されるデフォルトドキュメントとして追加します。

2.8 URL リライティング

Web コンテンツ管理システムの URL リライティング機能を有効にするには、Microsoft Internet Information Services は Apache web サーバの `mod_rewrite` モジュールと似た機能拡張を行われる必要があります。多くのこのような拡張は様々なサードパーティソフトウェアベンダより入手可能です。詳細についてはインターネットで “`windows iis mod_rewrite`” を検索してください。

2.9 CMD.EXE パーミッション

Web コンテンツ管理システムのスペルチェック機能を有効にするには、Microsoft Internet Information Services に Microsoft Windows コマンド “`cmd.exe`” よりその他のプログラム (“`aspell.exe`”) を実行するパーミッションを付与する必要があります。

- Microsoft Windows コマンドプロンプトを開きます
- 次のコマンドを入力します。“HEARTCORE” の部分はお使いの Microsoft Windows のコンピュータ名に置き換えてください。

```
cacls c:\windows\system32\cmd.exe /E /G HEARTCORE\IUSR_HEARTCORE:R
```

2.10 一時フォルダのパーミッション

Web コンテンツ管理システムのスペルチェック機能を有効にするには、Microsoft Internet Information Services / CMD.EXE / ASPPELL.EXE に Microsoft Windows 一時ファイルの作成、書き込み、削除パーミッションを、一時フォルダ (例: `C:\windows\temp`) のプロパティより付与する必要があります:

- 一時フォルダのプロパティを選択します
- セキュリティタブを選択し、Everyone にフルコントロールアクセス許可を追加します。

警告: セキュリティのため、すべてのユーザにフルコントロール許可を付与したくない場合があります。より強度なセキュリティ設定については、Microsoft Windows 及び Internet Information Services ドキュメントを参照ください。

2.11 親パスのパーミッション

Microsoft Windows 2003 IIS 6.0 では、「親パス」を禁止するよう設定することができ、ASP のエラーメッセージ “`Disallowed Parent Path`” が表示されます。

Microsoft Windows 2003 IIS 6.0 に親パスのパーミッションを付与するには:

- IIS Manager を開きます
- Web サイトを右クリックします
- プロパティを選択します
- ホームディレクトリタブを選択します
- 「設定」 ボタンをクリックします
- アプリケーションオプションタブを選択します
- 「親のパスを有効にする」 をチェックします
- OK をクリックし、設定を保存します

2.12 ファイルアップロード制限

Microsoft Windows 2003 IIS 6.0 では、200KB より大きいファイルのアップロードを禁止することができ、次の ASP エラーメッセージが表示されます。

```
Request object error 'ASP 0104 : 80004005'  
Operation not Allowed  
/webadmin/ASPfileupload2.asp, line 7
```

Microsoft Windows 2003 IIS 6.0 のファイルアップロード制限を変更するには:

- IIS サービスを停止します
- "C:\Windows\System32\Inetsrv\MetaBase.xml" ファイルを編集します
- "AspMaxRequestEntityAllowed" を "1073741824" に設定します (上限値が 1 GB になります。もしくは、任意に別の値を設定してください)
- IIS サービスを開始します

2.13 ダブルエスケープシーケンスの許可

Microsoft Windows IIS 7.0 では、「ダブルエスケープシーケンス」を禁止する設定がされている場合があり、Web コンテンツ管理システムにログインしようとするとき次の Web サーバエラーメッセージが表示されます:

```
HTTP Error 404.11 - Not Found  
The request filtering module is configured to deny a request that contains a double escape sequence.  
Module: RequestFilteringModule
```

ダブルエスケープシーケンスは、Web コンテンツ管理システム内で異なるページや機能間における自動リダイレクトのために、Web コンテンツ管理システムによって要求される場合があります。ダブルエスケープシーケンスを許可するには、「要求フィルタ (requestFiltering)」設定のセッティングが、Web サイトの「web.config」設定ファイルか、もしくは Web サーバの「C:\Windows\System32\inetsrv\config\applicationHost.config」設定ファイルに追加されている必要があります。

```
<system.webServer>  
  <security>  
    <requestFiltering allowDoubleEscaping="true">  
    </requestFiltering>  
  </security>  
  .....
```



Microsoft Windows IIS 7.0 では、「web.config」設定ファイル内で、「requestFiltering（要求フィルタ）」への変更を禁止する設定がされている場合があります。Web コンテンツ管理システムにログインしようとするとき以下の Web サーバーエラーメッセージが表示されます。

```
HTTP Error 500.19 - Internal Server Error
The requested page cannot be accessed because the related configuration data for the page is invalid.
Module: RequestFilteringModule
Config Error: This configuration section cannot be used at this path. This happens when the section is locked at a parent level. Locking is either by default (overrideModeDefault="Deny"), or set explicitly by a location tag with overrideMode="Deny" or the legacy allowOverride="false".
```

このエラーは、「requestFiltering（要求フォルダ）」設定のセッティングを、Web サイトの「web.config」設定ファイルから、Web サーバーの「C:\Windows\System32\inetsrv\config\applicationHost.config」設定ファイルに移動させることで解決することができます。または、Web サーバーの「C:\Windows\System32\inetsrv\config\applicationHost.config」設定ファイルのセッティングを

```
<section name="requestFiltering" overrideModeDefault="Allow" />
```

へ変更します。

3 Apache Web サーバ

3.1 URL リライティング

The Apache web サーバの“mod_rewrite”モジュールのリライトルールは、Apache の設定ファイル“httpd.conf”及び“.htaccess”の両ファイルに定義されていることがあります。しかし、“.htaccess”ファイルに定義されているリライトルールは、Web コンテンツ管理システムとは正常に動作しない場合があります。もし“.htaccess”ファイル内のリライトルールが正しく機能しない場合、Apache の“httpd.conf”設定ファイルに移して試してください。

4 Microsoft SQL Server 2000

4.1 サービスパックおよびアップデート

Microsoft SQL Server 2000 は、サービスパック 3a（もしくはより最新のもの）に更新されている必要があります。

詳細については <http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;290211> を参照してください。

4.2 HeartCore Web コンテンツ管理システムデータベース

Microsoft SQL Server データベースは Web コンテンツ管理システム用に作成される必要があります。Microsoft SQL Server ユーザアカウントは Web コンテンツ管理システムデータベース用に作成される必要があります。

Microsoft SQL Server のユーザアカウントには、Web コンテンツ管理システムデータベースのデータベースオーナー権限を付与する必要があります。

ユーザアカウントをユーザが入力するログイン ID とパスワードを使用して SQL Server 認証を行うよう作成し、デフォルトのデータベースを Web コンテンツ管理システムデータベースに変更します。



4.3 ODBC Data Source

Microsoft SQL Server 2000 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの ODBC データソースは、ANSI の引用符付き識別子、NULL、埋め込み文字、警告を使用しないよう設定します。

- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – 管理ツール – データソース(ODBC)を開きます
- システム DSN を選択し、HeartCore Web コンテンツ管理システム用 ODBC データソースを追加・設定します。
- 名前: heartcore (ここで“heartcore”は、Microsoft SQL Server web コンテンツ管理システムデータベースの名前を指定します)
- サーバ: (local).
- 以下を選択します: "ユーザが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う"
- ログイン ID: username (ここで"username"には Microsoft SQL Server ユーザアカウントのユーザ名を指定します)
- パスワード: password (ここで"password"には Microsoft SQL Server ユーザアカウントのパスワードを指定します)
- "規定のデータベースを以下のものに変更する"では、自動的に (Microsoft SQL Server ユーザアカウントに設定されている) Web コンテンツ管理システムデータベースの名前が表示されているはずですが。
- "ANSI の引用符付き識別子を使用する"を選択解除します。
- "ANSI の NULL、埋め込み文字、警告を使用する"を選択解除します。
- "SQL Server のシステムメッセージを以下の言語に変更する: English"
- データソースのテストを行います: "テストは無事に完了しました"

※HeartCore で利用するデータベースの文字コードは「UTF-8」となります。
「UTF-8」での作成をお願い致します。

5 Oracle

5.1 Apache Tomcat

Oracle は XDB サービス用に TCP/IP ポート 8080 を使用することがあります。この TCP/IP ポート 8080 は、デフォルトで Apache Tomcat でも使用されます。これらのサービスのうちひとつしかポート 8080 を使用することができません。

The Oracle XDB サービスは、次のデータベース上で SQL ステートメントを実行することで無効化できます。

```
call dbms_xdb.cfg_update(updateXML(dbms_xdb.cfg_get(),'/xdbconfig/sysconfig/protocolconfig/httpconfig/http-  
port/text()',0));  
  
commit;  
  
exec dbms_xdb.cfg_refresh;
```

Oracle XDB を無効化する代わりに別のポートに変更するには、“0”を任意の TCP/IP ポート番号に置き換えてください。



または、Apache Tomcat を 8080 以外の TCP/IP ポートを使用するよう、再設定します。

5.2 Microsoft Windows および ODBC

Microsoft Windows の環境変数"ORACLE_HOME" は、Oracle データベースのホームパスに設定されている必要があります。設定されていない場合、アプリケーションが Oracle データベースに接続できない場合があります。例: "C:\oracle\product\10.1.0\Db_1".

"ORACLE_HOME" 環境変数を設定した後、コンピュータの再起動が必要なことがあります。

5.3 Microsoft Windows および Internet Information Services

Microsoft Windows Internet Information Services のユーザアカウントは、Oracle データベースドライバを使用するための権限が付与されている必要があります。

- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – ユーザとパスワードを開きます
- 「追加」 を選択し、IUSR_XXXXX ユーザを Administrators グループに追加します。

警告: セキュリティのため、単純に IUSR_XXXXX ユーザを Administrators に追加したくない場合があります。より強度なセキュリティ設定については、Microsoft Windows 及び Internet Information Services、Oracle ドキュメントを参照ください。

権限を付与した後は、Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – 管理ツール – サービスより Internet Information Services サービスの再起動を行うか、コンピュータの再起動が必要な場合があります。

5.4 Red Hat Enterprise Linux

Oracle データベースサーバ及び Apache web サーバは、どちらも Linux 環境変数にデータベース名、キャラセット、パスを起動スクリプトに定義して起動させる必要があります。以下はその例になります:

```
export ORACLE_SID=heartcore
export ORACLE_HOME=/u01/app/oracle/product/10.1.0/db_1
export TNS_ADMIN=$ORACLE_HOME/network/admin/tnsnames.ora
export ORA_NLS33=$ORACLE_HOME/nls/data
export NLS_LANG=AMERICAN_AMERICA.WE8ISO8859P1
export LD_LIBRARY_PATH=$LD_LIBRARY_PATH:$ORACLE_HOME/lib
export PATH=$PATH:$ORACLE_HOME/bin
```

※HeartCore で利用するデータベースの文字コードは「UTF-8」となります。
「UTF-8」での作成をお願い致します。

6 IBM DB2

6.1 Microsoft Windows および Internet Information Services

Microsoft Windows Internet Information Services ユーザアカウントには、IBM DB2 データベースドライバを使用する権限が付与されている必要があります。:

- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – ユーザとパスワードを開きます。
- 「追加」 を選択し、IUSR_XXXXX ユーザを Administrators グループに追加します。

警告: セキュリティのため、単純に IUSR_XXXXX ユーザを Administrators に追加したくない場合があります。より強度なセキュリティ設定については、Microsoft Windows、Internet Information Services 及び IBM DB2 のドキュメントを参照ください。



権限を付与した後は、Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – 管理ツール – サービスより Internet Information Services サービスの再起動を行うか、コンピュータの再起動が必要な場合があります。

6.2 テーブル領域

データベースは、Web コンテンツ管理システムが使用する多大なテキストカラムをサポートするため、16K 及び/あるいは 32K ページサイズのデフォルトユーザ及びシステム一時テーブル領域が設定されている必要があります。されていない場合、データベースのインポート及び問い合わせクエリがエラーになる場合があります。

※HeartCore で利用するデータベースの文字コードは「UTF-8」となります。
「UTF-8」での作成をお願い致します。

7 MySQL

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、MySQL 4.0 及び MySQL Connector/ODBC 3.51 あるいは MySQL Connector/J 3.0 とあわせて使用するよう開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

MySQL 4.1 及び MySQL Connector/ODBC 3.51 の Microsoft Windows 版データベースドライバは、正しく動作しない場合があります。その他のデータベースドライバや古い MySQL 及び MySQL Connector/ODBC データベースドライバを使用する必要があるかもしれません。

これは MySQL Connector/ODBC 3.51 データベースドライバの一般的なエラーによるものです。より最新の MySQL Connector/ODBC 3.51 データベースドライバではこの問題は解決されているはずです。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは MySQL Connector/ODBC 3.51 データベースドライバの一般的なエラーが解決すれば、MySQL 4.1 と動作するはずです。HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP 及び PHP バージョンは JSP/JDBC 及び PHP データベースドライバを使用して MySQL 4.1 と動作します。

最終的には、次の設定変更を行うことで、Microsoft Windows 版 MySQL 4.1 及び MySQL Connector/ODBC 3.51 データベースドライバを使用できる場合があります。

7.1 壊滅的なデータベース接続障害

Microsoft Windows 版の MySQL Connector/ODBC 3.51.10 データベースドライバは ASP と正しく動作せず、データベース設定時にエラー ("壊滅的な障害") が発生する場合があります。もしデータベース接続が確立された後、データベースのデータを保存、取得ができない場合があります。

Microsoft Windows 版の MySQL Connector/ODBC 3.51.10 データベースドライバの代わりに MySQL Connector/ODBC 3.51.9 データベースドライバ (もしくはそれ以外の古いバージョンのもの) を使用すべきです:

<http://ftp.up.ac.za/pub/windows/MySQL/Downloads/MyODBC3/MyODBC-standard-3.51.9-win.msi>

7.2 データベース接続認証プロトコルエラー

Microsoft Windows 版の MySQL Connector/ODBC 3.51.9 データベースドライバは ASP と正しく動作せず、データベース設定時にエラー ("クライアントはサーバが要求する認証プロトコルをサ



ポートしていません。MySQL クライアントのアップグレードを検討してください)が発生する場合があります。

この問題を回避するには、古いバージョンの MySQL 及び/あるいは MySQL Connector/ODBC データベースドライバを使用する必要があるかもしれません。もしくは単純に、grant tables パーミッションを無効にしたい場合があります。例えば Microsoft Windows の "MySQL Administrator - Startup Variables - Security - Disable grant tables" からです。

警告: これは MySQL データベースの重要なセキュリティ機能を無効にします。本番サーバでは十分にセキュリティを考慮せずに行うべきではありません。

7.3 高度な ODBC 設定オプション

Microsoft Windows 上で MySQL を ODBC とあわせて使用する際には、場合によっては ODBC データソースの "Advanced" - "カラム幅を最適化しない" 及び "一致する列を返す" オプションが有効になっている必要があります。そうでない場合、データ保存時にプログラムエラーが発生することがあります。:

```
Microsoft Cursor Engine error '80040e21'  
Multiple-step operation generated errors. Check each status value.
```

※HeartCore で利用するデータベースの文字コードは「UTF-8」となります。
「UTF-8」での作成をお願い致します。

8 PostgreSQL

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、PostgreSQL 7.4.とあわせて使用するよう開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

8.1 情報の出力

PostgreSQL は、データベースの設定及びインポート時に様々な情報メッセージを「エラー」として出力することがあります。これらの情報メッセージは単純に無視するか、これらの情報メッセージを返さないよう PostgreSQL を設定することができます。

例えば Microsoft Windows 版 PostgreSQL 8.0 及び pgAdmin III を使用した場合:

- データベースプロパティを選択します
- "variables" タブを選択します
- "client_min_messages" という名前の変数を追加し、値に "warning" あるいは "error" を設定します。

8.2 最大テキストサイズ

現在のバージョンの Microsoft Windows 版 PostgreSQL ODBC データベースドライバは、正しく動作しないことがあります。(データベース設定及びインポート時に "-2147467259 Data provider or other service returned an E_FAIL status." というエラーになります。)



しかし、Microsoft Windows 版 PostgreSQL ODBC データベースドライバは、次の設定変更で動作可能となる場合があります。

PostgreSQL はデフォルトでは 8190 文字までのテキストサイズのみを許可していることがあります。これよりも大きいテキストサイズもサポートされていますが、場合によっては大きいテキストサイズを許可するよう PostgreSQL を設定する必要があります。

例えば、Microsoft Windows 版 PostgreSQL ODBC ドライバを使用する場合:

- ODBC データソースコントロールパネルを開きます。
- PostgreSQL データソースを設定します。
- データソースを選択します。
- "Max LongVarChar"を"8190" から "1000000"に増やします。

詳細については、PostgreSQL 及び PostgreSQL ODBC データベースドライバのドキュメントを参照ください。

8.3 PostgreSQL 8.3.x

PostgreSQL 8.3.x の改良にともない、データベースインポートエラーが起こることがあります。それはこの改良においては、SQL 表現で正確なデータタイプを自動的にキャスト・認識しなくなっている場合があるからです。（厳密には、“columnx like ? and columny like ?” などの実行が出来なくなっている場合があるということなのですが、場合によっては、“columnx like cast (? テキスト) and columny like cast (? 整数)”などを実行しなければならない場合があります。

最終的にこの問題は、新しいリリース版の PostgreSQL データベースドライバか、もしくは HeartCoreWeb コンテンツ管理システム PHP バージョンで使用される PHP PEAR DB のようなデータベースライブラリ、または、この両方を使って解決する場合があります。

その間、以下の SQL 記述 (<http://people.planetpostgresql.org/peter/index.php?/archives/18-Reading-implicit-casts-in-PostgreSQL-8.3.html> より) を、“pgAdmin III”のような標準の PostgreSQL データベースクエリのツールを使って PostgreSQL 8.3.x データベース上に直に実行し、自動キャストをデータベースの中に追加しなおすことで、PostgreSQL 8.3.x は“修復”される場合があります。

```
CREATE FUNCTION pg_catalog.text(integer) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT textin(int4out($1));';

CREATE CAST (integer AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(integer) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(smallint) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT textin(int2out($1));';

CREATE CAST (smallint AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(smallint) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(oid) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT textin(oidout($1));';

CREATE CAST (oid AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(oid) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(date) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT textin(date_out($1));';

CREATE CAST (date AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(date) AS IMPLICIT;
```

```
CREATE FUNCTION pg_catalog.text(double precision) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS
'SELECT textin(float8out($1));';

CREATE CAST (double precision AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(double precision) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(real) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT
textin(float4out($1));';

CREATE CAST (real AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(real) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(time with time zone) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS
'SELECT textin(timetz_out($1));';

CREATE CAST (time with time zone AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(time with time zone) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(time without time zone) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL
AS 'SELECT textin(time_out($1));';

CREATE CAST (time without time zone AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(time without time zone) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(timestamp with time zone) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL
AS 'SELECT textin(timestamptz_out($1));';

CREATE CAST (timestamp with time zone AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(timestamp with time zone) AS
IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(interval) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT
textin(interval_out($1));';

CREATE CAST (interval AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(interval) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(bigint) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT
textin(int8out($1));';

CREATE CAST (bigint AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(bigint) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(numeric) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE SQL AS 'SELECT
textin(numeric_out($1));';

CREATE CAST (numeric AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(numeric) AS IMPLICIT;

CREATE FUNCTION pg_catalog.text(timestamp without time zone) RETURNS text STRICT IMMUTABLE LANGUAGE
SQL AS 'SELECT textin(timestamp_out($1));';

CREATE CAST (timestamp without time zone AS text) WITH FUNCTION pg_catalog.text(timestamp without time zone) AS
IMPLICIT;
```

※HeartCore で利用するデータベースの文字コードは「UTF-8」となります。
「UTF-8」での作成をお願い致します。

9 Apache Tomcat

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Apache Tomcat 7.0.94 及び Java 1.8 とあわせて使用するよう開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

9.1 Java

<http://java.sun.com> より Java J2SE 1.4.2_08 SDK ("j2sdk-1_4_2_08-windows-i586-p.exe") をダウンロードし、"C:\j2sdk1.4.2_08"にインストールしてください。



9.2 Apache Tomcat

<http://www.apache.org> より Apache Tomcat 5.0.30 ("jakarta-tomcat-5.0.30.exe") をダウンロードし、"C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0"にインストールしてください。

9.3 Java tools.jar

Java の "tools.jar" がインストール/設定されている必要があります。

- Apache Tomcat 4.1

"tools.jar" を "C:\jdk1.4.2_08\lib\" から "C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\"にコピーします。

- Apache Tomcat 5.0

"tools.jar" を "C:\jdk1.4.2_08\lib\" から "C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\"にコピーします。

- Apache Tomcat 5.5

JSP コンパイラが含まれているので、Java SDK から "tools.jar" をコピーする必要はありません。

9.4 Website ルートコンテキスト

HeartCore Web コンテンツ管理システムは Apache Tomcat ルートコンテキスト "C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\webapps\ROOT\"としてインストールされる必要があります。

または、Apache Tomcat ルートコンテキストを、現在使用されている web サイトのルートフォルダの位置 (HeartCore Web コンテンツ管理システムがインストールされている場所) に変更してください。

- Apache Tomcat 4.1

C:\Program Files\Apache Group\Tomcat 4.1\conf\server.xml

```
<Context path="" docBase="d:\HeartCore\Web Content Management" debug="1" />
```

- Apache Tomcat 5.0

C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\conf\Catalina\localhost\heartcore.xml

```
<Context path="" docBase="d:/HeartCore/Web Content Management" debug="1" privileged="true" />
```

- Apache Tomcat 5.5

C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.5\conf\server.xml

```
<Context path="" docBase="d:\HeartCore\Web Content Management" debug="1" />
```

または、Apache Tomcat が例えば Microsoft Internet Information Services や Apache web サーバなどの web サーバとあわせて使用されている場合、ルート以外のコンテキストにインストールされている場合があります。web サーバは web サイトのルートフォルダを Apache Tomcat の HeartCore Web コンテンツ管理システムのコンテキストにマッピングするよう設定されている必要があります。詳細についてはお使いの Web サーバのドキュメントを参照ください。

9.5 Website Root Folder Permissions

注意: 古いバージョンの Apache Tomcat でのみ必要な場合があります。

The HeartCore Web コンテンツ管理システムには Web サイトのルートフォルダおよびそのサブフォルダにファイルを作成、書き込みを行うパーミッションが必要です。



Apache Tomcat では、作成および書き込みのパーミッションは以下を C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\conf\catalina.policy ファイルに追加することで付与できます。:

```
grant codeBase "file:${catalina.home}/webapps/ROOT/-" {  
    permission java.io.FilePermission "${catalina.home}/webapps/ROOT/-", "read,write,delete";  
};
```

ここで、“\${catalina.home}/webapps/ROOT/” は HeartCore Web コンテンツ管理システムがインストールされているフォルダを指定します。

9.6 JavaMail

JavaMail がインストール及び設定されている必要があります:

- <http://java.sun.com/products/javamail/> より JavaMail API 1.3.1 ("javamail-1_3_1.zip") をダウンロードしてください。
- "mail.jar" ファイルを "javamail-1_3_1.zip" から “C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\” に抽出します。
- <http://java.sun.com/products/javabeans/glasgow/jaf.html> より JAF 1.0.2 ("jaf-1_0_2.zip") をダウンロードしてください。
- "activation.jar" ファイルを "jaf-1_0_2.zip" から “C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\” に抽出します。

9.7 JavaMail Permissions

注意: 古いバージョンの Apache Tomcat でのみ必要な場合があります。

場合によっては JavaMail パーミッションを C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\conf\catalina.policy ファイルに追加する必要があります。:

```
grant codeBase "file:${catalina.home}/webapps/ROOT/-" {  
    permission java.io.FilePermission "${catalina.home}/common/lib/activation.jar", "read";  
    permission java.io.FilePermission "${catalina.home}/common/lib/mail.jar", "read";  
    permission java.io.FilePermission "${java.home}/jre/lib/mailcap", "read";  
    permission java.io.FilePermission "${java.home}/jre/lib/javamail.address.map", "read";  
    permission java.io.FilePermission "${java.home}/jre/lib/javamail.providers", "read";  
    permission java.net.SocketPermission "127.0.0.1:25", "connect";  
    permission java.net.SocketPermission "localhost:25", "connect";  
};
```

ここで“\${catalina.home}/webapps/ROOT/”には HeartCore Web コンテンツ管理システムがインストールされているフォルダを指定します。

9.8 Microsoft Access および Sun JDBC-ODBC データベースドライバ

DSN を使用せず直接 Microsoft Access アクセスデータベースに Sun JDBC-ODBC データベースドライバで接続した場合 (例 : access:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver::@jdbc:odbc:DRIVER={Microsoft Access Driver (*.mdb)}; DBQ=D:\HeartCore\Web Content Management\webadmin\database.mdb)、正常に動作せず、データベース初期化及びインポート時に多くのエラーが発生する場合があります。Microsoft Access データベースに DSN なしで直接 Sun JDBC-ODBC データベースドライバ接続を行う場合は、常に Apache Tomcat のログファイルにエラーがないか確認してください。

If a direct DSN を使わない Microsoft Access データベースへの直接の Sun JDBC-ODBC データベースドライバ接続が正常に動かない場合、代わりに ODBC Data Source Name (DSN) を設定し使用してください。



9.9 Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC

現在のバージョンのデフォルトの sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver Java データベースドライバは、Microsoft SQL Server とは正常に動作しない場合があります。（“[Microsoft][ODBC SQL Server Driver] Connection is busy with results for another hstmt”というエラーになります。）

Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC を使用してください:

- <http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=9f1874b6-f8e1-4bd6-947c-0fc5bf05bf71&DisplayLang=en> より Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC をダウンロードします。
- Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC を “C:\Program Files\Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC” にインストールします
- "msbase.jar"、"msutil.jar" 及び "mssqlserver.jar" を "C:\Program Files\Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC" から "C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\" にコピーします。

あるいは、その他のサードパーティ製 JDBC データベースドライバを使用してください:

<http://servlet.java.sun.com/products/jdbc/drivers>

9.10 Oracle および Sun JDBC-ODBC データベースドライバ

環境変数 "ORACLE_HOME" の設定が必要です (このドキュメントの別の箇所にも記載されている通り)。設定されていない場合、Apache Tomcat がデフォルトの Java sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver データベースドライバを経由して Oracle データベースに接続できない場合があります。

9.11 Oracle JDBC ドライバ

現在のバージョンのデフォルト Java sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver データベースドライバは、Oracle と正常に動作しない場合があります (コンテンツが切り捨てられたり、データベースインポート時にエラーになります)。

Oracle JDBC ドライバを使用してください:

- Sun Java JDK1.2/1.3 には、
http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj_jdbc/index.html から "classes12.jar" ファイルをダウンロードしてください
- Sun Java JDK1.4/1.5 には、
http://www.oracle.com/technology/software/tech/java/sqlj_jdbc/index.html から the "ojdbc14.jar" ファイルをダウンロードしてください。
- ダウンロードしたファイルを、"C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\" にコピーしてください。

データベース接続文字列に、追加パラメータの指定が必要な場合があります:

```
oracle:oracle.jdbc.driver.OracleDriver:username:password@jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:heartcore
```

もしくは、Oracle 10g Express Edition の場合、データベース名は “XE” になります:

```
oracle:oracle.jdbc.driver.OracleDriver:username:password@jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:XE
```



もしくは、その他のサードパーティ製 JDBC データベースドライバを使用してください:

<http://servlet.java.sun.com/products/jdbc/drivers>

9.12 MySQL JDBC Driver

現在のバージョンのデフォルト Java `sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver` データベースドライバは、MySQL と正常に動作しない場合があります。(データベースインポートエラーが起きます。)

MySQL Connector/J driver を使用して下さい。

9.13 MySQL Connector/J

MySQL Connector/J のインストール及び設定が必要な場合があります:

- “mysql-connector-java-3.1.6-bin.jar” を MySQL Connector/J パッケージから “C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\” にコピーします。

データベース接続文字列に、追加パラメータの指定が必要な場合があります:

```
mysql:com.mysql.jdbc.Driver:username:password@jdbc:mysql://localhost/heartcore?useUnicode=true&characterEncoding=UTF-8
```

9.14 PostgreSQL JDBC

PostgreSQL JDBC データベースドライバのインストール及び設定が必要な場合があります:

- Copy the “postgresql-8.0.309.jdbc2.jar”, “postgresql-8.0.309.jdbc2ee.jar” あるいは “postgresql-8.0.309.jdbc3.jar” を PostgreSQL JDBC パッケージから “C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\common\lib\” にコピーします。

9.15 データベース接続パーミッション

注意: 古いバージョンの Apache Tomcat でのみ必要な場合があります。

C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\conf\catalina.policy ファイルにデータベース接続パーミッションの追加が必要なことがあります。(この設定が必要かどうかは、Apache Tomcat ログファイルにエラーがないか確認してください):

```
grant codeBase "file:${catalina.home}/webapps/ROOT/-" {  
    permission java.lang.RuntimePermission "getClassLoader";  
    permission java.net.SocketPermission "127.0.0.1:1433", "connect,resolve";  
    permission java.net.SocketPermission "localhost:1433", "connect,resolve";  
    permission java.net.SocketPermission "127.0.0.1:3306", "connect,resolve";  
    permission java.net.SocketPermission "localhost:3306", "connect,resolve";  
};
```

ここで “\${catalina.home}/webapps/ROOT/” は HeartCore Web コンテンツ管理システムがインストールされているフォルダです。“1433” および “3306” は、データベースサーバが使用する TCP/IP ポート番号です。:

- Microsoft SQL Server: 1433
- MySQL: 3306

9.16 動的再コンパイル

いくつかの HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定データは .jsp ファイルに書かれており、これを反映させるには Apache Tomcat により再コンパイル及び再ロードされる必要があります。 .jsp ファイルに書かれる設定データには、データベース接続文字列 (Configuration -



System – Database より)、スーパーアドミンのユーザ名 (Configuration – System – Superadmin より)、そして Web サイトのデフォルトページ、デフォルトテンプレート、デフォルトスタイルシート、及びデフォルトバージョン(Configuration – System – Website)が含まれます。

デフォルトでは Apache Tomcat はファイル変更のチェック及び変更済みファイルの再コンパイルを 300 秒 (5 分) ごとに行うよう設定されています。この間隔は C:\Program Files\Apache Software Foundation\Tomcat 5.0\conf\web.xml ファイルを編集することで変更できます (詳細は Apache Tomcat のドキュメントを参照ください):

```
<servlet>
  <servlet-name>jsp</servlet-name>
  <servlet-class>org.apache.jasper.servlet.JspServlet</servlet-class>
  <init-param>
    <param-name>checkInterval</param-name>
    <param-value>1</param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>fork</param-name>
    <param-value>>false</param-value>
  </init-param>
  <load-on-startup>3</load-on-startup>
</servlet>
```

ここで“1”が変更済みファイルのチェックとその再コンパイルの間隔の秒数です。

あるいは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベースや Web サイトの設定が変更された際に、ファイルを再コンパイル後 Apache Tomcat を手動で再起動したい場合があります。詳細については Apache Tomcat ドキュメントを参照してください。

10 IBM WebSphere

現在のバージョンの HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは、IBM WebSphere とあわせて使用するよう開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

10.1 Web サイトルートコンテキスト / デフォルトアプリケーション

私どもの通常のソフトウェアパッケージからファイルとフォルダを WebSphere のデフォルトアプリケーションフォルダにコピーして下さい。以下はその例です。

```
C:\Program
Files\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\AppSrv01\installedApps\win2003Node01Cell\DefaultApplicati
on.ear\DefaultWebApplication.war\
```

HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは、WebSphere アプリケーションサーバデフォルトアプリケーションとしてインストールされている必要があります。例えば、このようになります。

```
“C:\Program
Files\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\AppSrv01\installedApps\win2003Node01Cell\DefaultApplicati
on.ear\DefaultWebApplication.war”
```

最終的には、WebSphere アプリケーションサーバデフォルトアプリケーションを他の場所に変更します。



または、WebSphere アプリケーションサーバが Microsoft Internet Information Services や Apache web サーバ等とあわせて使用されている場合、HeartCoreWeb コンテンツ管理システムは Web サイトのホーム/ルートフォルダ内の別の場所にインストールされる可能性があります。Web サーバは、Web サイトルートフォルダとサブフォルダ内にあるすべての "*.jsp" スクリプトを、WebSphere アプリケーションサーバにマッピングするよう設定される必要があります。詳細については、WebSphere アプリケーションサーバと Web サーバのドキュメントを参照して下さい。

HeartCoreWeb コンテンツ管理システムが、デフォルト/ルートアプリケーションにインストールされていて、Web サイトアドレスが "www.yourwebsite.com/page.jsp" や "www.yourwebsite.com/webadmin/index.jsp" のようになっていることをご確認下さい。"www.yourwebsite.com/wcm/page.jsp" や "www.yourwebsite.com/wcm/webadmin/index.jsp" のようになっているか注意して下さい。

10.2 画像/ファイルのサービング

スタンドアローン（独立）での WebSphere インストールにおいて、WebSphere は、WebSphere の "ibm-web-ext.xmi" 設定ファイルで画像ファイル等を扱えるよう設定される必要がある場合があります。例として、

```
"C:\Program  
Files\IBM\WebSphere\AppServer\profiles\AppSrv01\config\cells\win2003Node01Cell\applications\DefaultApplication.ear\deployments\DefaultApplication\DefaultWebApplication.war\WEB-INF\ibm-web-ext.xmi" ここで、
```

```
fileServingEnabled="false"  
を  
fileServingEnabled="true"
```

に変更します。

10.3 データベースドライバ

Java データベースドライバ（例："mysql-connector-java-3.1.12-bin.jar"）は、WebSphere の "lib" フォルダにコピーされている必要があります。例えば、"C:\Program Files\IBM\WebSphere\AppServer\lib\" や、もしくは Java CLASSPATH 内の任意の場所へなどです。

11 Sun Java System Application Server

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Sun Java System Application Server Platform Edition 8 とあわせて使用するよう開発されています。しかし、その他のバージョンも設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

11.1 Web サイトのルートコンテキスト

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Sun Java System Application Server のドキュメントルート "C:\Sun\AppServer\domains\domain1\docroot\" にインストールする必要があります。

最終的には Sun Java System Application Server のドキュメントルートを別の場所に変更して下さい。



もしくは、Sun Java System Application Server が例えば Microsoft Internet Information Services や Apache web サーバのような web サーバと連携して使用されている場合、ルート以外のコンテンツにインストール可能です。web サーバは、web サイトのルートフォルダを Sun Java System Application Server 上の HeartCore Web コンテンツ管理システムのコンテンツにマッピングするよう、設定される必要があります。詳細についてはお使いの web サーバのドキュメントを参照してください。

11.2 Web サイトのルートフォルダパーミッション

HeartCore Web コンテンツ管理システムには、Web サイトのルートフォルダ及びそのサブフォルダにファイルを作成及び書き込むためのパーミッションが必要です。

Sun Java System Application Server には、以下を

C:\Sun\AppServer\domains\domain1\config\server.policy ファイルに追加することで作成及び書き込みのパーミッションを付与することができます:

```
grant {  
    permission java.io.FilePermission "<<ALL FILES>>", "read,write,delete";  
};
```

11.3 動的な再コンパイル

いくつかの HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定データは、.jsp ファイルに書かれており、これを反映させるには Sun Java System Application Server により再コンパイル及び再ロードされる必要があります。.jsp ファイルに書かれる設定データには、データベース接続文字列 (Configuration - System - Database より)、スーパーアドミンのユーザ名 (Configuration - System - Superadmin より)、そして Web サイトのデフォルトページ、デフォルトテンプレート、デフォルトスタイルシート、及びデフォルトバージョン (Configuration - System - Website) が含まれます。

デフォルトでは Sun Java System Application Server はファイル変更のチェック及変更済みファイルの再コンパイルを 300 秒 (5 分) ごとに行うよう設定されています。この間隔は

C:\Sun\AppServer\domains\domain1\config\default-web.xml ファイルを編集することで変更できます (詳細は Sun Java System Application Server のドキュメントを参照ください):

```
<servlet>  
  <servlet-name>jsp</servlet-name>  
  <servlet-class>org.apache.jasper.servlet.JspServlet</servlet-class>  
  <init-param>  
    <param-name>checkInterval</param-name>  
    <param-value>1</param-value>  
  </init-param>  
  <load-on-startup>3</load-on-startup>  
</servlet>
```

ここで“1”が変更済みファイルのチェックとその再コンパイルの間隔の秒数です。

あるいは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベースや Web サイトの設定が変更された際に、ファイルを再コンパイル後 Sun Java System Application Server を手で再起動した場合があります。詳細については Sun Java System Application Server ドキュメントを参照してください。

11.4 セッションタイムアウト

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ユーザのログイン情報、バージョン設定、及びその他のデータのためにセッション変数を使用します。



デフォルトでは Sun Java System Application Server のセッションタイムアウトは 30 分に設定されています。C:\Sun\AppServer\domains\domain1\config\default-web.xml ファイルに次の設定を行うことで、この値を大きくすることができます:

```
<session-config>  
  <session-timeout>30</session-timeout>  
</session-config>
```

12 Sun One ASP

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Sun One ASP と使用するためのテストはされていません。しかし、設定変更なしで、または設定変更を行うことで動作可能な場合があります。

12.1 親パスを有効にする

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、親フォルダからのファイルを使用します。デフォルトでは、Sun One ASP では親フォルダへのアクセスが無効になっている場合があります。

12.1.1 Microsoft Windows

- Microsoft Windows レジストリを開きます:
My Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ChiliSoft\ChiliASP\Parameters
- “EnableParentPaths” という Microsoft Windows レジストリのキー/値を設定します:
EnableParentPaths = 1

13 PHP

現在のバージョンの HeartCore Web コンテンツ管理システムは、PHP 5 以降とあわせて使用するよう開発されています。

13.1 PHP

Microsoft Windows に PHP をインストールするには、Microsoft Web Platform Installer の使用を推奨します。或いは、“dlls” や “extensions” を含む、フル PHP パッケージがインストール/設定されている必要があります:

- "php-5.x.x-Win32.zip" を <http://www.php.net> よりダウンロードします
- "php-5.x.x-Win32.zip" ファイルを "C:\PHP" に展開します
- "C:\PHP\dlls*.*)" を "C:\WINNT\system\" にコピーします
- "C:\PHP\php5.dll" を "C:\WINNT\system32\" にコピーします
- "C:\PHP\php.ini-recommended" を "C:\WINNT\php.ini" にコピーします

13.2 PHP PEAR

PHP PEAR コンポーネントがインストール設定されている必要があります:

- C:\PHP\go-pear.bat を実行します
- PHP PEAR のすべてのデフォルトオプションを受け入れます



13.3 E メール

Web コンテンツ管理システムから E メールを送るようになるには、"C:\WINNT\php.ini" が以下のように設定されている必要があります:

```
SMTP = localhost  
sendmail_from = me@example.com
```

ここで“me@example.com”はお使いの E メールアドレスになります。

Internet Information Services SMTP サーバが開始され、“relay”を許すよう設定されている必要があります。

13.4 エラー

"C:\WINNT\php.ini" が、警告を表示しないよう設定されている必要があります:

```
display_errors = Off
```

もしくは

```
error_reporting = E_ALL & ~E_NOTICE & ~E_WARNING
```

最終的にはエラーログを有効にします:

```
log_errors = On  
error_log = /var/log/httpd/php
```

13.5 制限

"C:\WINNT\php.ini" が、ファイルのアップロードを有効にするよう設定されている必要があります:

```
file_uploads = On
```

最終的にはその他の制限を変更してください:

```
upload_max_filesize = 2M  
post_max_size = 8M  
memory_limit = 8M
```

13.6 Oracle

現在のバージョンの PHP ODBC データベースドライバ

(oracle:odbc://username:password@heartcore)は、Oracle と正常に動作しない場合があります (CLOB 型のデータベースフィールドでの 4000 文字制限のため、データベースエラーとなります)。

ネイティブな PHP Oracle データベースドライバ(oracle:oci8://username:password@heartcore) を代わりに使用してください。

PHP のいくつかのバージョン (例えば Red Hat Enterprise Linux のデフォルトの PHP など) では、“oci8” PHP Oracle データベースドライバのサポートが含まれない場合があります。Oracle とあわせて使用するには、PHP は“—with-oci8” PHP 設定パラメータで設定および構築される必要があります。“—with-oci8” PHP 設定パラメータ付の PHP バージョンの入手または構築については、オペレーティングシステム及び PHP のドキュメントを参照してください。

ネイティブの PHP Oracle データベースドライバを有効にするには、“C:\WINNT\php.ini” に以下の設定が必要です:



```
extension_dir = "C:\PHP\extensions"  
extension=php_oci8.dll  
extension=php_oracle.dll
```

13.7 MySQL

ほとんどのバージョンの PHP ではデフォルトで MySQL がサポートされ、かつ有効になっていますが、いくつかのバージョンの PHP ではライセンス制限のため、MySQL サポートがデフォルトで有効になっていませんでした。もし MySQL サポートが含まれず、有効になっていない場合、PHP 用の MySQL クライアントライブラリをダウンロード、インストール、及び設定する必要があります。詳細 PHP 及び MySQL ドキュメントを参照してください。

13.8 PostgreSQL

13.8.1 データベースドライバ

現在のバージョンの Microsoft Windows 版 PostgreSQL ODBC データベースドライバは、正しく動作しない場合があります (データベース設定及びインポート時にエラーとなります)。

代わりにネイティブの PHP PostgreSQL データベースドライバ (pgsql:pgsql://username:password@localhost/heartcore) を使用してください。

PHP のほとんどのバージョンではデフォルトで PostgreSQL サポートが含まれますが、場合によっては PostgreSQL サポートを有効にするために、含まれている PostgreSQL 拡張子 (pgsql) をロードするよう PHP を設定する必要があります。詳細については PHP のドキュメントを参照してください。

ネイティブ PHP PostgreSQL データベースドライバを有効にするには、"C:\WINNT\php.ini" に以下の設定が必要です:

```
extension_dir = "C:\PHP\extensions"  
extension=php_pgsql.dll
```

13.8.2 データベースエンコーディング

データベースの設定及びインポート中に、"[nativecode=ERROR: invalid byte sequence for encoding 'UNICODE': 0xe66774]" というエラーがいくつかのコンテンツ項目に対して表示されることがあります。

この問題を解決するためには、場合によっては PostgreSQL データベースを、"Encoding: UNICODE".ではなく、"Encoding: LATIN1" もしくはこれに類似したものを使用するように作成、設定する必要があります。

もしくは、Unicode エンコードを処理できるようお使いの Web サーバや PHP の設定を変更することが可能な場合があります。詳細についてはお使いの Web サーバ及び PHP のドキュメントを参照ください。

13.9 Internet Information Services

これらの使用説明は、旧バージョンの PHP・Microsoft Internet Information Services に適用されます。詳しくは、一般的な現在の PHP・Microsoft Internet Information Services 資料を参照して下さい。Microsoft Windows に PHP をインストールするには、Microsoft Web Platform Installer の使用を推奨します。

Internet Information Services は、PHP を使用するよう設定されている必要があります:



- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル – 管理ツール - Internet Services Manager – デフォルト Web サイト – プロパティ - ISAPI Filters を開きます:
 - o フィルター名: PHP
 - o 実行ファイル: C:\PHP\sapi\php4isapi.dll
- Microsoft Windows – 設定 – コントロールパネル - 管理ツール - Internet Services Manager – デフォルト Web サイト - プロパティ – ドキュメントを開きます:
 - o デフォルトドキュメントを有効にする: index.php
- Microsoft Windows - 設定 – コントロールパネル – 管理ツール - Internet Services Manager – デフォルト Web サイト – プロパティ – ホームディレクトリ – 設定を開きます:
 - o 実行ファイル: C:\PHP\sapi\php4isapi.dll
 - o 拡張子: .php

13.10 safe_mode

Web コンテンツ管理システムは、PHP の"safe_mode" とともに制限及び条件付きで動作します:

PHP (php.ini) に以下の設定が必要です:

```
safe_mode_include_dir = /usr/share/pear/
```

ここで "/usr/share/pear/" は、PHP PEAR がインストールされている場所です。

PHP (php.ini) に以下の設定も必要です:

```
max_execution_time = 300
```

(この設定がない場合、データベースインポートを実行するための十分な時間がない場合があります)

Web サイトのルートフォルダ及びサブフォルダは、同一のユーザがオーナーになっている必要があります、このユーザにはフォルダ及びファイルの読み込みと書き込み権限が必要です。

Web サイトのルートフォルダとサブフォルダ及びファイルは"group" という Web サーバプロセスが必要で、この Web サーバプロセスにはフォルダとファイルの書き込み及び読み込み権限が必要です (設定データを書き込んだり、コンテンツページ、ファイル及び画像を作成するため)。

14 HeartCore Web コンテンツ管理システム

14.1 Microsoft Windows + Microsoft Access + JSP

Microsoft Windows で Microsoft Access 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP バージョンを使用する場合、データベース接続文字列は次のようになります:

```
access:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:heartcore
```

ここで "username" 及び "password" は、Microsoft Access ユーザアカウントのユーザ名及びパスワードを指定します (要求される場合のみ指定 - そうでない場合は "username" 及び "password" のままにしておいてください)。

14.2 Microsoft Windows + Microsoft SQL Server + JSP

Microsoft Windows で Microsoft SQL Server 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP バージョンを使用する場合、データベース接続文字列は次のようになります:

```
mssql:com.microsoft.jdbc.sqlserver.SQLServerDriver:username:password@jdbc:microsoft:sqlserver://localhost
```

ここで "username" 及び "password" は、Microsoft SQL Server ユーザアカウントのユーザ名及びパスワードを指定します。

14.3 Microsoft Windows + Microsoft SQL Server + PHP

Microsoft Windows で Microsoft SQL Server 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの PHP バージョンを使用する場合、データベース接続文字列は次のようになります:

```
mssql:odbc://username:password@localhost/heartcore
```

ここで "username" 及び "password" は、Microsoft SQL Server ユーザアカウントのユーザ名及びパスワードを指定し、"heartcore" は Microsoft SQL Server での Web コンテンツ管理システムデータベース名を指定します。

Microsoft SQL Server ユーザアカウントには、データベースオーナー権限などが必要です。

14.4 Microsoft Windows + Oracle + JSP

14.4.1 Oracle JDBC Driver

Microsoft Windows で Oracle 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの JSP バージョンを使用する場合、データベース接続文字列は次のようになります:

デフォルトの Java sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver データベースドライバの場合

```
oracle:sun.jdbc.odbc.JdbcOdbcDriver:username:password@jdbc:odbc:heartcore
```

もしくは Oracle JDBC データベースドライバの場合

```
oracle:oracle.jdbc.driver.OracleDriver:username:password@jdbc:oracle:thin:@localhost:1521:heartcore
```

ここで "username" 及び "password" は、Oracle ユーザアカウントのユーザ名及びパスワードを指定し、"heartcore" は Oracle の Web コンテンツ管理システムデータベース名を指定します。

Oracle ユーザアカウントには、データベースオーナー権限などが必要です。

14.4.2 Oracle open_cursors

データベースのインポート中、Oracle がリソース不足になる場合があります (Apache Tomcat コンソール/標準出力ログに "maximum open cursors exceeded" というエラーが出力されます)。Oracle の "open_cursors" 設定を増やすことで、これを回避することができます- 例えばデフォルトの "300" から "3000" などです。

The "open_cursors" 設定は、Oracle の "init.ora" 設定ファイルまたは Oracle Enterprise Manager アプリケーション (Oracle エンタープライズマネージャ-10g / データベースコントロール / 管理 / すべての初期化パラメータ / SPFile / Filter: open_cursors) から変更可能です。詳細については、Oracle のドキュメントを参照してください。



HeartCore



14.5 Microsoft Windows + Oracle + PHP

Microsoft Windows で Oracle 及び HeartCore Web コンテンツ管理システムの PHP バージョンを使用する場合、データベース接続文字列は次のようになります:

```
oracle:oci8://username:password@heartcore
```

ここで "username" 及び "password" は、Oracle ユーザアカウントのユーザ名及びパスワードを指定し、"heartcore"は Oracle の Web コンテンツ管理システムデータベース名を指定します。

Oracle ユーザアカウントには、データベースオーナー権限などが必要です。